ごみを減らす 繰り返し使う リサイクルする

3Rについて考えてみませんか

10月は3R推進月間

3Rとは、「リデュース（Reduce）」、「リユース（Reuse）」、「リサイクル（Recycle）」の頭文字を取ったものです。この「R」に取り組むことでごみを減らし、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会（＝循環型社会）を目指します。

3Rって聞いたことあるけど、どういう意味なの

- **Reduce**（リデュース）……ごみになるものを減らすこと
- **Reuse**（リユース）……すぐに捨てず、繰り返し使うこと
- **Recycle**（リサイクル）……ごみにせず、資源として分別して再生利用すること

なぜ3Rが必要なんだろう

家庭からは毎日たくさんのごみが排出されていて、荒川区のごみが最後に運ばれる中央防波堤埋立処分場は、ごみを埋め立てるために膨大な容量を必要とします。

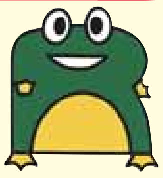
荒川区の家庭から出る年間のごみ量は約54,172ｔであり、計算すると区民1人が年間で出すごみは約256kgにもなります（平成28年度）。

このままごみが出続けると、あと50年ほどで埋立処分場はいっぱいになると言われており、私たちの出すごみの処分場がなくなってしまいます。

少しでも長く埋立処分場を使うためにも、一人ひとりのごみを減らす努力が必要です。

3Rの活動のために何をすれば良いのかな

荒川区リサイクルキャラクター▶りっくる



3Rは難しいことじゃないよ。具体例を見てみよう

Reduce

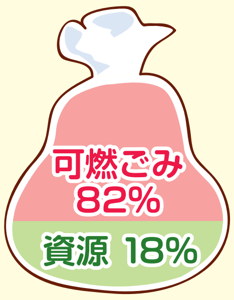
- 食べ残しをしない
- 詰め替え商品を使う
- 余分な包装は断る

Reuse

- フリーマーケットやリサイクルショップを利用する
- 洋服の回収サービス等を利用する
- 繰り返し使えるタンブラーやマイボトルを積極的に使う

Recycle

- きちんと分別して資源回収に出す
- リサイクル製品を積極的に使う



きちんと分別すれば資源になったのに、もったいないよね

ごみ袋の中身を見ると、可燃ごみの中には18%の資源が混入していました

（平成28年度荒川区ごみ組成調査報告書より）

平成29年3月に行った「荒川区一般廃棄物基本計画」の中間見直しでは、平成33年度の区民1人1日当たりごみ量等の目標値は、ごみを今よりも125ｇ（たまご約2個分）減らして、資源を60ｇ増やすことを目標としています。

目標を達成するためには、区民一人ひとりが生活を見直し、きちんと分別をする等、3Rを心掛けることが大切です。

Reduce（リデュース） 荒川もったいない大作戦

3R推進月間 ＆（アンド） 世界食糧デー

10月16日は「世界食糧デー」、世界の食糧問題を考える日です。日本では食べ残し、賞味期限切れ等で捨てられてしまう食べ物（食品ロス）がたくさんあります。そこで区では「荒川もったいない大作戦」を展開し、食品ロスを減らす取り組みをしています。この大作戦では、食べきりや、食材の使いきりに協力する飲食店や小売店等を「あら！もったいない協力店」として募集しています。また、「フードドライブ」を行い、家庭に眠っている食品を持ち寄り、必要とする人へ提供することにより、食べられずに捨てられてしまう食品を減らす取り組みをしています。

詳しくは、荒川もったいない大作戦 検索

フードドライブ

好みに合わなかった贈答品や備蓄用食品の買い替え等、使い切れない食品の提供にご協力ください。社会福祉協議会を通し、「子どもの居場所・子ども食堂」やNPO団体等へ提供します。

対象食品

未開封で賞味期限が2か月以上残っている食品（レトルト食品、缶詰、調味料、乾麺、ペットボトル飲料、離乳食等）、米（平成27年度以降に国内で収穫したもの） ※生鮮、冷蔵・冷凍食品を除く

常設窓口を開設して機会拡大

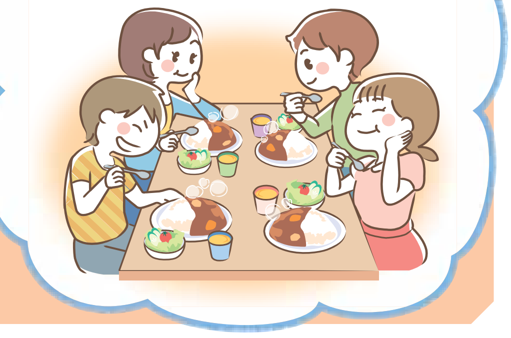
フリーマーケット等のイベントでフードドライブを開催していましたが、「日程の都合がつかない」等の声に応え、新たに常設窓口を3か所開設しますので、ご協力をお願いします。

常設窓口 荒川清掃事務所3階、あらかわリサイクルセンター2階、あらかわエコセンター2階

受付時間 ㈪～㈮午前9時～午後5時（あらかわリサイクルセンターは㈯・㈷も受け付け）

子どもの居場所・子ども食堂

さまざまな事情を抱える子どもたちに、「温かい食事をみんなで食べよう」という趣旨で、低価格での食事の提供や学習の支援を行っており、地域のボランティアが活動を支えています。



問合せ 清掃リサイクル課 ☎内線470